

2016年12月6日

日本政策投資銀行の環境格付において
最高ランクの格付を取得・特別表彰を受賞

株式会社三菱ケミカルホールディングス

株式会社三菱ケミカルホールディングス（本社：東京都千代田区、社長：越智 仁、以下「当社」）は、株式会社日本政策投資銀行（本社：東京都千代田区、社長：柳 正憲、以下「DBJ」）の環境格付評価で、最高ランクの格付を取得し、また、格付評価が傑出して高いモデル企業のみが該当する特別表彰を併せて受賞しました。（※）

DBJ 環境格付とは、DBJ が開発したスクリーニングシステム（格付システム）により、企業の環境経営度を評点化し、優れた企業を選定、得点に応じて融資条件を設定するものです。

今回の格付では、以下の点が高く評価されました。

- （1）2011年から開始した5年間のKAITEKI経営の実践を通じて、グループ会社を含めた非財務情報であるMOS（Management of Sustainability）指標^{（注1）}を用いたマネジメント体制を浸透させると共に、同指標に対する実績評価のPDCAサイクルを回すことで従業員に対する価値観の共有化を図っている点
- （2）当社グループの企業活動の判断基準を踏まえながら重要課題（マテリアリティ）を再特定し、同分析を踏まえた現中期経営計画「APTSIS20」を策定している点
- （3）「APTSIS20」におけるMOS指標の改定を契機として財務情報であるMOE（Management of Economics）指標^{（注2）}との結びつきを強化しながら、2015年に制定された国連の持続可能な開発目標（SDGs）等の国際的なCSR潮流を踏まえた「水資源や食料問題解決に貢献する製品・サービスの提供」等を定量的な目標として設定している点

当社は、「THE KAITEKI COMPANY」のコーポレートブランドのもとKAITEKI^{（注3）}実現を率先して進め、人、社会、そして地球環境のより良い関係を創ることを目指し、活動してまいります。



※当社は、2013年12月にもDBJの環境格付評価を受け、最高ランクの格付を取得し、特別表彰を受賞しております。

- (注1) 人と社会と地球の現在、未来のために、様々な環境・社会課題の解決やその先にあるより良い未来の創造を志向する当社の経営基軸です。
当社グループの企業活動の判断基準である Sustainability（環境・資源）、Health（健康）、Comfort（快適）に関する定量的指標を策定し、PDCA サイクルを回す仕組みを構築しています。
- (注2) 人材、資産、資金などの様々な資本を効率的に活用し、利益をはじめとする経済的価値観向上を追求する当社の経営基軸です。当社では、営業利益や資本効率などを指標として、実績を開示しています。また、株主総会・投資家向け事業説明会などの場で実績や将来の見通しを報告しています。
- (注3) 当社は、KAITEKIを「時を越え、世代を超え、人と社会と地球の心地よい状態が続いていること」と定義しています。



(右から)

DBJ 常務執行役員 穴山 眞様

当社 代表執行役専務 小酒井 健吉

経営戦略室 KAITEKIグループマネジャー 神田 三奈

以上

本件に関するお問合せ先
(株) 三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室
電話: 03-6748-7140